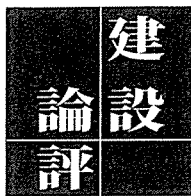


第2次世界大戦末期、米国の戦略爆撃により、わが国は主要都市の住宅、工場をはじめ、港湾、鉄道、空港インフラをことごとく破壊された。わが国の戦後は、こじらしたインフラの復興、整備から始まった。戦後77年がいま、高度成長期に集中的に整備された膨大な社会インフラ（アセット）の老朽化が一挙に進み、耐用年数を迎えた社会インフラの維持・更新は待ったなしだ。

一方、異次元の少子高齢化の進展に伴う税収減、社会補償費用増加などにより、わが国の債務残高はGDP（国内総生産）の2倍と主要先進国の中で最も高い水準にあり、アセット整備の財源基盤の一層の縮減が想定されている。

国家財政的観点からすると、数年前から指摘されるフォロワーからストックへの対応、いわゆる「インフラを建設する時代」から「インフラを守り、育てる時

AM担う人材育成を



代」といった観点からの施策展開が喫緊の課題となっている。

換言すると、社会潮流が変化する中、アセットから価値を引き出し、より良く活用するため、強靱なアセットマネジメント（AM）体制を整備することが求められている。

その要となるのがアセットオーナー（国や地方公共団体における公物管理担当者）とサービス提供者の間の良好なコミュニケーションを図る役割を担うアセットマネージャー（CAMA Certified Asset Management Assessor）だ。この認定資格などを運用している国際組織がWPIAM（World Partner in Asset Management）である。わが国では日本ア

セットマネジメント協会（JIAAM）が同組織に加盟して2017年からその資格試験を実施している。これまで約250人のCAMA資格保有者を輩出してきたが、ニーズを満たすまでに至っていない。

そこでJIAAMは、WPIAMと連携して、わが国特有のAMに求められるニーズに対応した「JIAAM認定アセットマネージャー資格制度」を開発し、運用を始めた。第1弾として、昨年JCAM（JIAAM Certified Asset Manager）試験を実施。試験では、国際規格（ISO 55000シリーズ）の理解に加え、アセットマネジメントに関係する法規などの理解、「コストとリスクとパフォーマンス」のバランスを取るために必要に

なるリスクマネジメント手法、財務・会計、確率・統計に関する理解が問われる。そして、AMの国際規格を共通基盤として、AMに必要な知識を持ち、アセットマネージャーとしての資質があると認められた約70人に資格が付与された。高度成長期に集中的に整備された社会インフラのより良い運営・管理をするには、極めて少ないと言える。

建設産業における人材確保は極めて厳しい局面にあるが、AMを的確に行い、国内外で活躍できるアセットマネージャーの人材確保も、建設業界が早急に解決しなければならぬ課題だ。人生100年時代、建設業で培った経験を生かし、AM分野に一人でも多くの人が参加し、日本の未来を創造してほしい。

（流）